

No.40 役割

今回は、「役割」についての情報提供をします。

ダイアログを行うために対等な関係性をつくること、それが場づくりの大前提です。でも人は自然と自分の役割を見出して対等ではない関係性をつくることが多くて。その役割のことやダイアログの場をつくる人がやることなどをまとめてみました。

ダイアログを日常に取り入れて、自分という人生を歩みたい人が足を踏み出せる、この資料がそんなきっかけになれば嬉しいです。

人は集った瞬間に、自然と役割を見出し、その役割を持ったまま場に関わっていくという能力を持っています。

例えば、普段とてもポジティブに生きているAさんが、ダイアログの場に参加してくれました。でも今日はいつもと違って、とてもネガティブな発言が続きます。

ふと気になって他の人に目を移してみると、その場でダイアログしている相手であるBさんとCさんはAさんとくらべものにならないくらいポジティブで、BさんとCさんのポジティブな役割に対して、Aさんはひとりでネガティブな役割を果たしていたのです。

BさんとCさんがそれぞれが1 ポジティブ持っているとしたら、BさんとCさんの合計は2 ポジティブ。対極で役割を担っているAさんは、ひとりで2 ネガティブ持つことで、この場の均衡は保たれているのです。

念のために言っておきますが、ネガティブが悪い訳ではなく、ポジティブが良い訳でもありません。ただの感情の状態であり、スタンスであり、正しさを計るための合意された基準がない中では、良いも悪いも存在しません。

厳密に言うともっと複雑な要素が入り交じって場の役割が担われるのですが、例えとしてポジティブとネガティブという要素のみで考えたるとして、目の前にBさんとCさんが1ポジティブずつ、Aさんが2ネガティブ持っていたとします。

このダイアログの場をつくる人、ファシリテーターがそこにいた時にはどうしたらいいでしょうか。

まずひとつ、その人にできることとすれば、ファシリテーターもネガティブ側の役割を担って1ネガティブを受け持つこと。それによって、BさんとCさんで1ポジティブずつの合計2ポジティブ、Aさんとファシリテーターが1ネガティブずつで合計2ネガティブ。

次に、ファシリテーターがネガティブのすべてを受け持って、AさんとBさんとCさんの合計3ポジティブと、3ネガティブのファシリテーター、という場にする。

続いて、BさんとCさんよりももっとポジティブになり、BさんとCさんをネガティブ側に動かし、ファシリテーターが3ポジティブ、AさんとBさんとCさんで3ネガティブ。

最後に、ファシリテーターはポジティブでもネガティブでもない真ん中で待ち続け、その引力でAさんとBさんとCさんの3人に真ん中へ移動してもらう。

4つほどファシリテーターにできることを挙げてみたのですが、あなたはどれを選びますか？もしくは他の選択肢はありますか？

正解、不正解があるわけではないのでどれを選んでもいいのですが、対等な関係性で話すというダイアログの場で必要不可欠な要素を考えると、ダイアログをするメンバーが同じ立ち位置に居てもらえるようファシリテーターは努める必要があると僕は思っています。

その中で、自分が場を促し続けることを考えると、4番目の「真ん中で待ち続ける」を僕は選びます。3ネガティブな自分で中立に場を促すことができるとは思えないし、僕も一緒にダイアログしたいので。

場に生まれた役割に対してファシリテーターにできることは、プラスでもマイナスでもない自分を保つことであり、その場の全員を真ん中に集めることがとても重要な役割です。問いがきちんと持っていて、場が整えばファシリテーターとしての役目は終わったようなものなので。そんな場は、あとは自然に流れていきます。

では場とはどこまでを表すのでしょうか。

場を表すのにわかりやすいのが空間です。仕切られた空間の中、それが1番わかりやすい場の認識です。空間を使わず場を表すとしたら、僕にとっての場とは人と人の集いを表し、2人でも30人でも、その人たちを結んだもの、それが僕にとっての場です。

場をつくるうえで、仕切られた空間の中でメンバーが変わらない状況ならばいいのですが、人が出入りする場やオープンな空間ではその瞬間瞬間で役割が変わってくるので、臨機応変な場づくりを求められます。

その中で有効なのが、ひとりの輝かしい存在をつくること。いわゆる場の支配者をつくることで、それ以外の人のすべてが服従という役割を担います。これは場をコントロールするにはとても有効な手段です。

でもダイアログは対等な関係性で行うことが重要であり、コントロールすることが目的ではなく、ここの問いに向かって促すことが目的なので、目的からずれることとなります。

何度も言いますが、とにかく目的が大事です。例えば、インストラクションするための場と、ファシリテーターするための場にはそれぞれの目的に違いがあり、その目的からすべての場づくりが生まれています。これは場の役割においても同じことなので、目の前に表現されていることの向こうにあるもの、それに目を向けることをぜひ意識してみてください。

ダイアログの場をつくるためには、プラスでもマイナスでもない真ん中の自分で場に関わることが必要なのですが、けどいきなり当日、急にできることではありません。なので、そんな自分で場に関わるためにも日常から意識すること、それが大切です。

例えば会社や友達との場をよく観察してみてください。

「いつもと何かが違う...。」

それがそれぞれの役割を感じるためのヒントになります。そうやって場が発してくれているメッセージを受けとり、その対極を考えてみることで自分を含めたまわりとの関係性が見えてくるので。

では、イライラしている人の対極にはどんな役割の人がいるのでしょうか。パッと頭に浮かぶのは、ウキウキした人、のんびりした人など、そんな状態の人がいるのかもしれませんが。

今回の話に限らずすべてのことに言えますが、まずはそういう視点を持って場を体験することです。そうしないと想像することもできないので。実際にダイアログの場をつくってその様子を眺めながらそれぞれの役割を感じてみてください。そしてその場の自分を真ん中に保つこと、それを意識しながらダイアログの時間を過ごしてみてください。

たとえばうまくいかなかったとして、うまくいかなかった理由を発見することができるし、うまくいかない理由を見つけるという視点からすれば、それは成功となります。それにうまくいった部分のない場なんて存在しないので、それと合わせて次の場のヒントを得ればいいので。

こんな視点で人を見ることはなかなかないです。でもこれを知れば、人と人とがつくり出す場のメッセージを受けとりやすくなるので、まずはそんな視点を持って、毎日の人と人との関係性を眺めてみてください。

今回は「No.40 可視化」のお話をしました。次回は「No.41 隠された言葉」のお話をします。

ダイアログのススメは、ダイアログを日常に取り入れたり、ダイアログの場をつくったりする仲間たちと一緒にダイアログを学び合うためのコミュニティです。僕も含めたメンバーそれぞれが実践し、それを共有し合いながらまた実践し、それによってダイアログへの理解をより深めていく、そんな環境をつくるために一步一步進んでいるところです。

ぜひメンバーと一緒に、ダイアログ学び合う環境をつくっていきましょう。

ダイアログの教科書 No.40 役割

投稿日 2015/06/03 ・ 最終更新日 2015/06/03

発行 COBAKEN LIFESTYLE LABO <http://cobaken.net>